

伊丹福音ルーテル教会 聖霊降臨後第六主日礼拝のしおり

2022年7月17日

前奏

招きのことば：詩編11編4-7節

主は聖なる宮にいます。主は天に御座を置かれる。

御目は人の子らを見渡し、そのまぶたは人の子らを調べる。

主は、主に従う人と逆らう者を調べ 不法を愛する者を憎み

逆らう者に災いの火を降らせ、熱風を送り 燃える硫黄をその杯に注がれる。

主は正しくいまし、恵みの業を愛し 御顔を心のまっすぐな人に向けてくださる。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつく務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

私たちは忙しくしています。目の前のことに心奪われます。しなければならぬことに気がきます。しておくこと、しておきたいことのために、少ししか残っていない時間と労力をやりくりします。神様、とめどなく連続する毎日の中で、どうかイエス様に向きをかえることができ、深い満足と喜びをくみ上げつつ、隣人とともに幸せをつくっていくことができるように、お導きください。そうすれば今週も、神様の御前で、神様がいかに自分を大切にしてくださっているか、いかに大きな恵みを与えられているか、そして、いかに意味のある大事な使命を託されているか、など、ゆったりと神様の子どもである幸いを味わうことができます。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：コロサイの信徒への手紙 1章 15-28節

御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。あなたがたは、以前は神から離れ、悪い行いによって心の中で神に敵対していました。しかし今や、神は御子の肉の体において、その死によってあなたがたと和解し、御自身の前に聖なる者、きずのない者、とがめるところのない者としてくださいました。ただ、揺るぐことなく信仰に踏みとどまり、あなたがたが聞いた福音の希望から離れてはなりません。この福音は、世界中至るところの人々に宣べ伝えられており、わたしパウロは、それに仕える者とされました。今やわたしは、あなたがたのために苦しむことを喜びとし、キリストの体である教会のために、キリストの苦しみの欠けたところを身をもって満たしています。神は御言葉をあなたがたに余すところなく伝えるという務めをわたしにお与えになり、この務めのために、わたしは教会に仕える者となりました。世の初めから代々にわたって隠されていた、秘められた計画が、今や、神の聖なる者たちに明らかにされたのです。この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがた

の内におられるキリスト、栄光の希望です。このキリストを、わたしたちは宣べ伝えており、すべての人がキリストに結ばれて完全な者となるように、知恵を尽くしてすべての人を諭し、教えています。

福音書朗読：ルカによる福音書 10章 38-42 節

一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

讃美歌 494 番

- 1 わが行く道 いついかに なるべきかは つゆ知らねど 主はみこころ なしたまわん
※そなえたもう 主の道を 踏みて行かん ひとすじに
2. 心たけく たゆまざれ 人は変わり 世は移れど 主はみこころ なしたまわん ※
3. 荒海をも 打ち開き 砂原にも マナを降らせ 主はみこころ なしたまわん ※ **アーメン**

説教：「必要なことはただひとつ」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

お世話になった人に、心から感謝することは美しいことです。昔ほんとうにお世話になった方、今もとても大事にしてくださる方に対して、私たちには特別な思いがあります。ことあるごとに思い起こしては感謝します。そして、感謝をあらわすと喜んでくださる方も多いと思います。イエス様は、私たちがイエス様に、いつもたくさんのお世話になっているので感謝を表したい、お返しをしたい、イエス様のために少しでも役に立ちたい、という心を喜んでくださいます。そして私たちの行いをそのまま受け止めてくださいます。さらに祝福を与えて、私たちにも喜びがさらにあふれるようにしてください。

今日の箇所に登場するマルタは、イエス様とその一行が旅の途中で自分の村にも来てくださったことを知って、おもてなしをしようと自宅に招きました。一行は喜んでマルタの家を訪ねました。マルタは一生懸命おもてなしのために忙しくしました。イエス様は十二人のお弟子を遣わす時も、七十二人のお弟子を遣わす時も、訪ねる町や村で家にはいったら、その家に平和があるようにと言って、そこで出されるものを食べなさい、と勧めています。十人を超える人々

をお迎えするのはたいへんなことですが、マルタはイエス様と一行を喜んでもてなす心を持っていました。イエス様はこの家に平和があるように、と祝福してくださっていたことでしょう。そしてマルタのもてなしを喜んでお受けになっていたことでしょう。

マルタには姉妹がいました。マリアです。マリアは家に来てくださったイエス様の足元にすわって、そのお話に聞き入っていました。お客様をおうちにお迎えしたとき、応接間にお通ししたお客様を放っておいて、家のみんながもてなしの準備を別の部屋でしている、というもおかしいですから、マリアはお客様への対応をして、分業していた感じかもしれません。そうだったらマリアもある意味でお客様のもてなしを分担していたことになります。

しかしマルタはいらいらしてきました。マリアがすべての準備を自分に丸投げしてきて何食わぬ顔をしてイエス様の足元に座ってお話を聞いているなんて許せない。なぜ自分だけがこんなに立ち働かされているのか、と怒りました。ここでマルタの心に変化があります。イエス様をお迎えしておもてなしをしよう、と思いついたのは自分です。喜びがありました。しかし、準備をしているうちにマリアのことが気になりました。そして、マリアは楽をしている、いい汁を吸っている、自分は犠牲になって日の当たらないこの裏方で苦しんでいるのに誰も私に気づいてくれない。マルタはぶんぶん怒ってやってきました。わざと大きな足音で来たかもしれません。そして、マリアがそこにいるのにイエス様に気持ちをぶちまけました。「あなたは何とも思わないのですか、イエス様。マリアは私にだけもてなしをさせていますよ。おかしいと思ったらイエス様からマリアに、私を手伝うように命じてください。」すごい剣幕ですね。そして、怒りの矛先はマリアではなく、お客さまのはずのイエス様に向けられていますね。私はどうなるのですか、と詰め寄っています。マルタはその矛盾にも気づいていないようです。

自分の心のそのまますをマルタはイエス様に話すことができました。私たちもイエス様に、思っているまますをお祈りすることができることを学びます。自分が傷ついていることについて、人に訴えるのではなく、イエス様にお話しすることができます。

イエス様はどのように答えておられるでしょうか。「マルタ、マルタ」と、二度マルタの名前を呼んでおられます。これはイエス様が今は興奮してしまっているマルタ自身に向けてお話をする、というイエス様の姿勢の表れです。足元にはマリアが座っています。しかしイエス様はマルタに向き直って人格的に声をかけておられます。そのあと「あなたは多くのことに思い悩み、心を乱していますね」と言われました。マルタが自分の姿を見ることができるよう、マルタの今の状態をそのままお話になりました。マルタに、そういえばそうだね、気が付かなくてごめんね、と謝るのでもなく、自分で招いておいて姉妹のことで私に文句をいうなんて、あなたは間違っている、と批判したり叱ったりするのでもなく、マルタをそのまま受け止めて、マルタが自分の姿を見ることができるよう、話題をマルタ自身に絞ってお語りくださっています。確かにマルタは、イエス様が村に来られたことをきいて、無視して何もしないのではなく、あのよきサマリア人のように、進んで一行をお迎えし、できるかぎりのもてなしを一生懸命して

いたのですから、とてもよいことをしていたのです。そしてそのときに一度にたくさんのごことを思って、混乱してしまい、心せわしくなっていて、大切なことを見失っていたのです。マルタはイエス様に言われて、自分で自分の取り乱した姿を少し冷静に見る余裕が生まれました。

続いてイエス様は大切なことをおっしゃいました。少し新共同訳聖書とは印象が違いますが、イエス様は「しかし必要なことはただひとつのことです。マリアはよい部分を選んだのです。彼女からそれは取り去られることはありません」と言われました。かつて荒野で四十日間空腹になったとき悪魔の誘惑を退けてイエス様は「人はパンだけでいきるのではない、神の口から出るひとつひとつのみ言葉によって生きる」とおっしゃいました。マリアはよい部分を選んだ、とおっしゃった「部分」と言うことばは、料理の一品（ひとしな）をあらわすこともあるそうです。マリアはイエス様の口からでるみ言葉という一品を選んでいる、という意味も込めてイエス様がおっしゃられたのかもしれませんが。そして、そのみ言葉の種は、道端に落ちた種のように鳥が口にくわえて取り去っていくようなことにはなりません、必ず聞いた人のうちで実を結ぶのです。と強く約束してくださっています。

マルタはしかられたのではなく、我に返らせていただきました。そうだった。イエス様のみ言葉を聞いていたから、そもそも感謝をもってイエス様をおうちにお迎えしたのだった。その喜びが自分の心を動かして、できるだけのことをしておもてなしをしたいと思ったのだった。マリアはそのみ言葉を聞いてくれているのなら、祝福してあげよう、私もパンだけで生きるのではないのだから、イエス様のみ言葉という一品にあずかるよい部分に目をとめて歩いて行こう、と我に返らせていただきました。

私たちはマリアのようにイエス様に向きを変えてイエス様の足元に座ります。イエス様のみ言葉にあずかって、罪の赦しをいただき、喜びをもって神様と人々にお仕えしていくいのちをいただきます。口先だけの知ったかぶりの、覚悟のない仕方ではありません。人前だけの見せかけの仕方でもありません。喜んで、できるすべて、力と賜物のすべて動員して神様と人々の役に立つように努めます。家で、社会で、教会で、与えられている役割を私たちは日々にならしているのです。イエス様は私たちのその心を喜んで受け止めてくださいます。

しかし時には私たちも疲れます。家で、社会で、教会で、人の姿を見て影響されます。自分だけががんばっていて、気付いたらみんなから取り残されていたように思って、結局むなしい気持ちになったり、がっかりしたり、いつもこうだ、と思って悔しくなったりします。人のことを見ないで自分は独立してやっていこう、と心を閉ざしたり、人にきつい言葉を言って反省してもらおうとしたり、そうやって自分の姿と人の姿に気を取られてイエス様から目が離れます。

マルタはそのとき、遠目にイエス様を見て、声をあげてイエス様に呼びかけるのではなく、イエス様のそばに近寄って、心にあることを話しました。これがイエス様の聖名によって祈る祈りです。

イエス様はマルタとこのように言葉を交わすことを喜んでおられます。そしてマルタ自身をご覧になり、マルタが喜んで、安心して、心から神様と人々の役に立って生きていくことができるように、マルタに語り掛け、マルタに神の口からでるみ言葉という、極上の一品を与えてくださいました。イエス様は十字架にかかって罪の赦しをお与えくださいました。マルタのようにイエス様に向き直って、そのイエス様のお名前によって祈って歩むとき、自分でも治せない嫉妬や、寂しさや、怒りや、不安をイエス様が受け止めてくださり、自分をつき動かし支配しているそのような思いからイエス様が自由にしてくださいます。そのうえ、新しい命を与えてくださって、神様と人々に喜んで役に立ち、人々とともに幸せをつくっていく毎日、イエス様の聖名によって歩む豊かな毎日を導いてくださいます。なんとすばらしいことでしょうか。

マリアがよい人、マルタが悪い人ということではありません。み言葉を聴くことがよいこと、神様と人々にお仕えすることは悪いことというのでもありません。むしろ、神様からいただくみ言葉にあずかって、罪赦された清らかな喜びをもって、新しい心でどんどん神様と人々にお仕えして歩むことが勧められています。イエス様のみ言葉にあずかってそのように生きるとき、イエス様の聖名が広められ、あなたの周りが明るく平和で実を豊かに実らせていきます。

しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い部分を選んだ。それは取り上げられることはない。」ルカによる福音書 10 章 42 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくださいます。アーメン

讃美歌 525 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 めぐみふかき 主のほか、たれか我を 慰めん。
※わが主、わが神、恵みたまえ、ただ頼りゆく 我が身を
 - 2 わが主ともに いまさば、悪魔 我をいかにせん。 ※
 - 3 きよきみむね 教えて、果たしたまえ み誓い。 ※
 - 4 尊き主よ 我をば きみのものと したまえ。 ※
- アーメン

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ、あぁみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいぬがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。 **アーメン**

後奏